

(案)

令和7年 月 日

四国運輸局長 殿

高松市総合都市交通推進協議会  
香川県高松市番町一丁目8番15号  
会長 土井健司

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

標記について、別添のとおり実施しましたので報告します。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和7年 月 日

協議会名: 高松市総合都市交通推進協議会

評価対象事業名: ことでんバス株式会社

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ことでんバス(株)	伏石駅サンメッセ線 (伏石駅～県立図書館・文書館前～サンメッセ東)  大学病院線 (伏石駅～サンメッセ香川～高田駅)	<評価結果の反映状況> ・交通系ICカード「IruCa」を活用した <b>利用促進施策(乗継割引拡大事業等)</b> を継続して実施している。 ・バス路線再編については、市内全体の公共交通利用状況等を踏まえ、運行回数の効率化による需要に合わせた供給の最適化を目的とし、 <b>R6.4.1から再編を実施し</b> 、伏石駅へ接続する路線を増便する等、鉄道との結節性をより高める取り組みを行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	◆ <b>伏石駅サンメッセ線</b> 【利用者数】119,286人 (目標達成率: <b>73.5%</b> 目標利用者数: 162,249人) (対前年比: <b>96.7%</b> R6利用者数: 123,365人) (対前々年比: <b>93.3%</b> R5利用者数: 127,813人) 【収支率】60.6% (目標達成率: <b>124.7%</b> 目標収支率: 48.6%) (対前年差: <b>91.0%</b> R6収支率: 66.6%) (対前々年差: <b>124.7%</b> R5収支率: 48.6%) 利用者数については、目標値の7割程度となり、前年度からは微減となった。収支率については目標値を達成しているものの、前年度からは微減となった。  ◆ <b>大学病院線(伏石高田系統)</b> 【利用者数】15,882人 (目標達成率: 29.9% 目標利用者数: 53,048人) 【収支率】46.8% 新規路線ということもあり、利用者の定着がなされていないことが目標未達の要因と考えられる。 収支率は、目標を『現状より改善すること』としているが、R6.4からの運行を開始した路線であるため、目標なる数値が設定できていない。利用者数及び収支率ともに改善を目指して、周知や利用者のニーズを把握するなどの工夫を行ってまいりたい。	公共交通の利用促進施策である交通系ICカード「IruCa」を活用した運賃割引施策を実施するなど、引き続き、コロナ禍からの利用回復に努めるとともに、交通結節拠点整備やバス路線再編に取り組むことにより、ネットワーク全体の利便性向上を図る。 なお、新規路線については、周知を強化することにより、利用を促進できるよう取り組んでまいりたい。 また、近隣にレンタサイクルのポートを設置するなどし、施設の利便性を向上するなどし、利用者の増加に努めてまいりたい。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和7年 月 日

協議会名:	高松市総合都市交通推進協議会
評価対象事業名:	ことでんバス株式会社
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>高松市では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりの考えの下、将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向けて、既存ストックを活用し、鉄道を基軸に交通結節拠点整備やバス路線の再編、交通系ICカードを用いた施策により、一定のサービス水準を維持しながら、持続性の高い公共交通体系に変えつつ、需要に合わせた供給の最適化を行う「高松モデル」として、取組を推進しているところである。</p> <p>本市の「高松市地域公共交通利便増進計画」では、段階的に条件を満たす路線から再編することとし、国土交通大臣の認定を受け、令和3年11月6日のことでん伏石駅のグランドオープンに合わせて、翌日7日から、伏石駅サンメッセ線ほか1路線が乗り入れたほか、令和4年4月1日からは、鹿角線が経由したことにより、地域間幹線系統に接続するフィーダー系統として、伏石駅サンメッセ線は対象路線の条件を満たした。令和6年3月に認定を受けた「高松市地域公共交通利便増進計画(第3段変更)」に基づき、令和6年4月1日にバス路線再編を実施した結果、大学病院線(伏石高田系統)が地域内フィーダー系統の対象路線の要件と満たした。</p> <p>伏石駅サンメッセ線は、交通結節拠点の伏石駅と学術研究拠点の民間施設や学校などの教育施設を結ぶ路線であり、大学病院線(伏石高田系統)は、同じく伏石駅と県内唯一の大学病院である香川大学医学部附属病院を結ぶ路線である。両路線とも、地域住民の通勤や通学、通院などに利用されている生活の交通手段として、路線の維持・継続した運行の確保が必要な路線である。</p>

# 高松市総合都市交通推進協議会

地域内フィーダー系統  
事業評価(令和7年度)

### 高松市基礎データ

合併状況:平成17年9月1市1町合併、平成18年1月1市5町合併  
 人口:41.7万人(令和2年10月現在:R2国調データより)  
 面積:375.4平方キロメートル

### 高松市における主な公共交通概要

◆**鉄道**

- ・JR線 : 予讃線、高德線
- ・ことでん線 : 琴平線、長尾線、志度線

◆**路線バス**

《幹線》  
 交通結節拠点であるJR高松駅、ことでん瓦町駅を中心に、放射線状に広がる路線

《ネットワークバス》  
 ・地域間幹線系統、準幹線系統の路線としては位置づけられていないものの、高松市が定めている幹線系統の路線

《フィーダー》  
 交通結節拠点と郊外の目的地を繋ぐバス路線

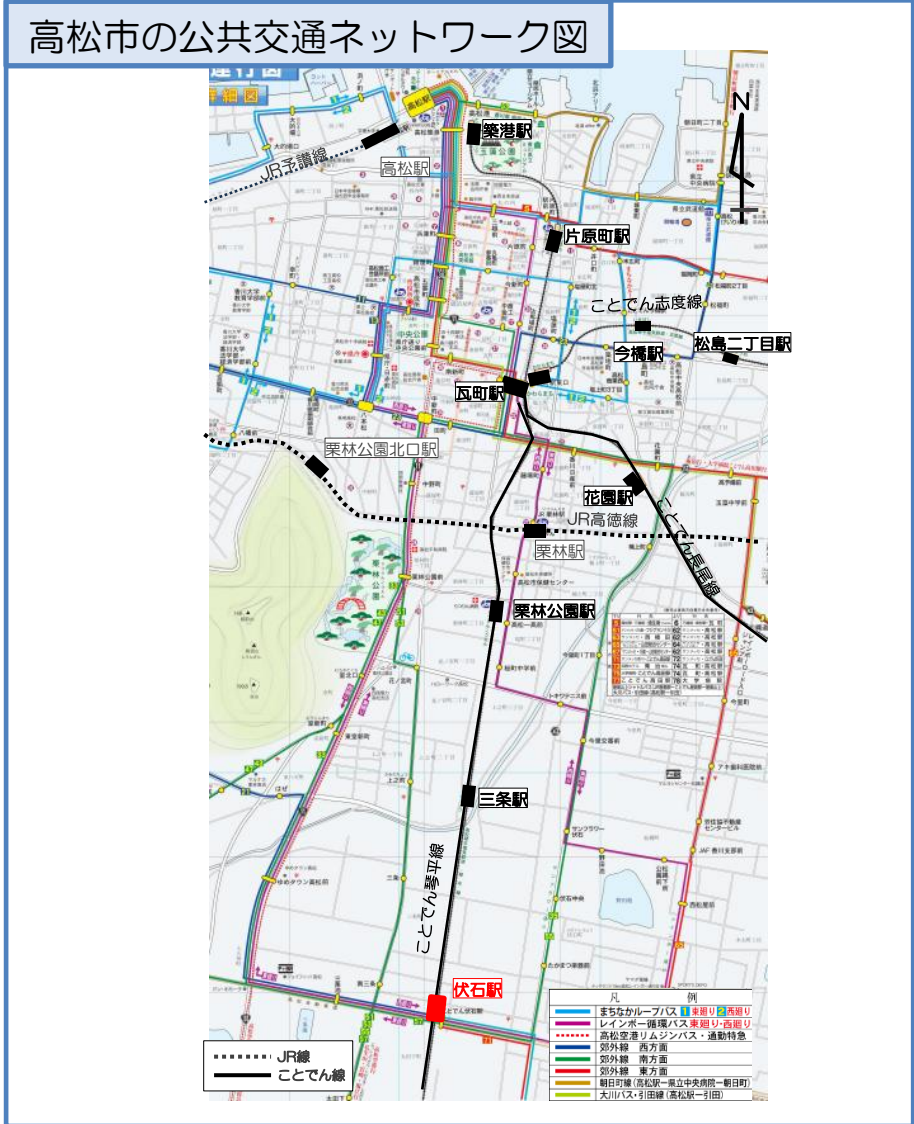
- ・伏石駅サンメッセ線 : ことでん伏石駅と学術研究拠点(香川インテリジェントパーク)にある企業や学校(香川大学)を結ぶ路線
- ・大学病院線(伏石高田系統) : ことでん伏石駅と学術研究拠点(香川インテリジェントパーク)にある企業や病院(香川大学医学部付属病院)を結ぶ路線

◆**コミュニティバス**

- ・高松市の郊外部や合併町で運行している路線

### 地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照



# 高松市総合都市交通計画推進協議会

地域内フィーダー系統  
事業評価(令和7年度)

## 協議会の構成員

学識経験者、JR四国、高松琴平電気鉄道(株)、  
(一社)香川県トラック協会、(一社)香川県バス協会、  
高松タクシー協会、(公社)高松青年会議所、  
高松中央商店街振興組合連合会、  
(一社)高松観光コンベンションビューロー、四国地方整備局、  
四国運輸局、香川県、香川県警、市民(公募委員)、高松市

## 前年度の事業評価における課題

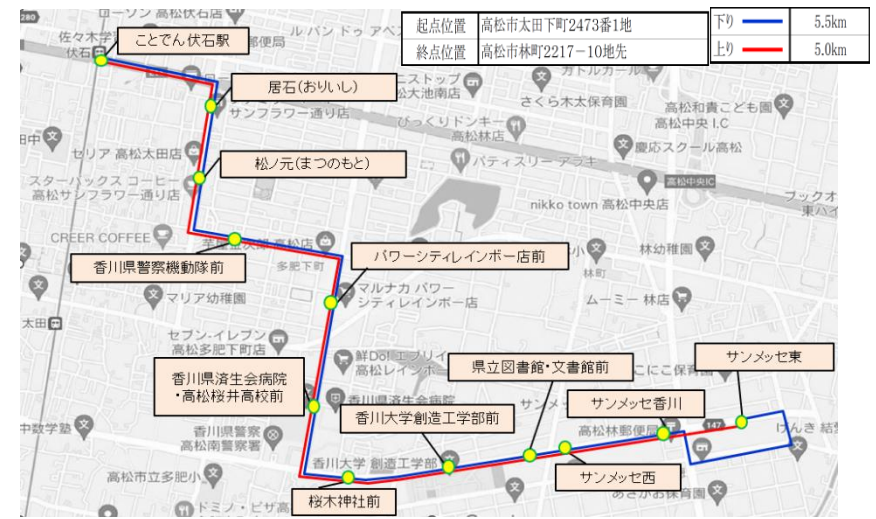
- ・交通系ICカードを利用した公共交通の利用促進施策の実施
- ・交通結節拠点整備やバス路線再編
- ・モビリティマネジメントによるバス利用の促進

## 定量的な目標・効果

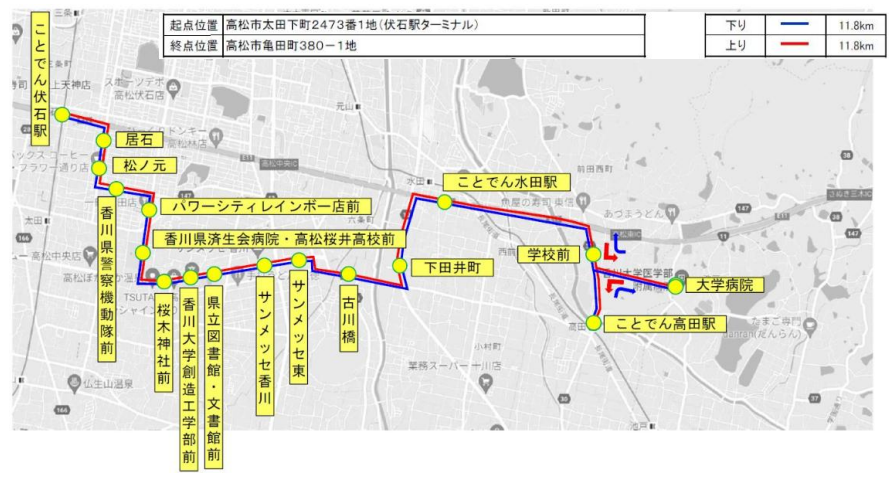
- ◆**目標**
- 《伏石駅サンメッセ線》
  - ・年間利用者数:162,249人以上 (R6実績:123,365人)
  - ・収支率 :48.6% (R6実績:66.6%)
- 《大学病院線(伏石高田系統)》
  - ・年間利用者数:53,048人以上 (R6.4運行開始)
  - ・収支率 :現状より改善 (R6.4運行開始)
- ◆**効果**
- 伏石駅サンメッセ線は、交通結節拠点の伏石駅と学術研究拠点の民間施設や学校などの教育施設を結ぶ路線であり、大学病院線(伏石高田系統)は、同じく伏石駅と県内唯一の大学病院である香川大学医学部附属病院を結ぶ路線である。両路線とも、地域住民の通勤や通学、通院などに利用されている生活の交通手段として、路線の維持・継続した運行の確保が必要な路線である。

## フィーダー系統図

《伏石駅サンメッセ線》



《大学病院線(伏石高田系統)》



## 「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・乗継ぎ抵抗を軽減するICカード施策(電車・バス乗継割引拡大制度、高齢者運賃半額制度)を継続的に実施した。
- ・持続可能な公共交通ネットワーク構築に資する市の認定バス路線(ネットワークバス)に対し継続的に支援を実施した。
- ・公共交通利用促進に資するバスマップ(コミュニティバスを含む。)を配布した。
- ・令和6年10月24日、令和7年2月21日に高松市総合都市交通計画推進協議会を開催し、より効率的な運行を目指したバス路線再編について審議した。

## 自己評価

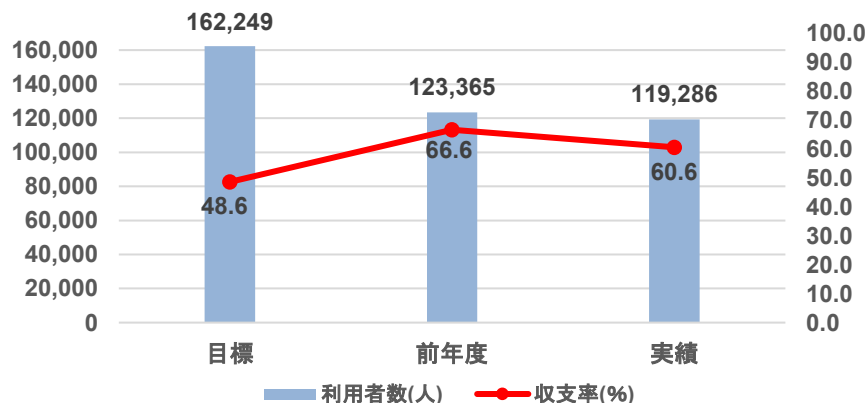
### 事業実施の適切性

当初予定の事業に対する実施結果について、ICカードを用いた施策については、「IruCa」を活用した利用促進施策(乗継割引拡大事業等)を継続して実施し、バス路線の再編については、R6. 4. 1から実施し、伏石駅へ接続する路線を増便する等、鉄道との結節性をより高める取り組みを行い、当初の予定通り事業を実施することができた。

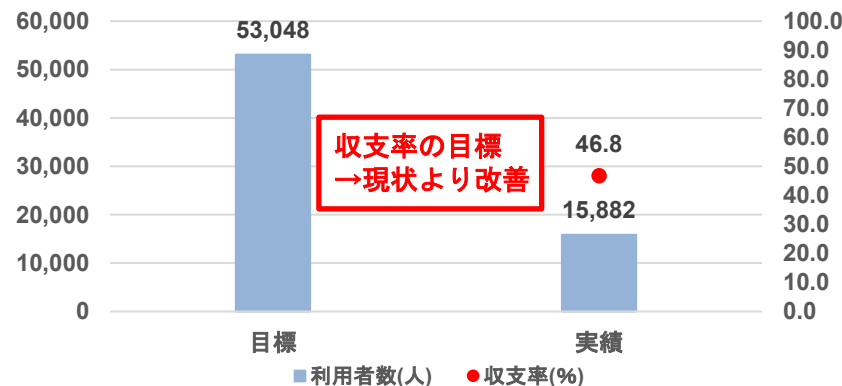
### 「定量的な目標・効果」の達成状況

→評価A

#### ◆伏石駅サンメッセ線



#### ◆大学病院線



- ・伏石駅サンメッセ線は、収支率は目標を達成しているものの、利用者数は約7割程度にとどまっている。
- ・大学病院線は目標値の約3割程度となっており、路線の定着に向けた周知を行う必要がある。

→評価B(一部達成)

## 今後の事業に向けた改善点

公共交通の利用促進施策である交通系ICカード「IruCa」を活用した運賃割引施策を実施するなど、引続きコロナ禍からの利用回復に努めるとともに、交通結節拠点整備やバス路線再編に取り組むことにより、ネットワーク全体の利便性向上を図る。

また、当該路線は、通勤・通学利用者の多い路線であることから、モビリティマネジメントを通じてバスの利用を促すなど、引き続き利用者増に努める。

## その他PRポイント

・交通結節拠点である伏石駅において、レンタサイクルポートを新たに設置するなど駅周辺の利便性を向上させる取組を行っている。

## 【参考】評価基準

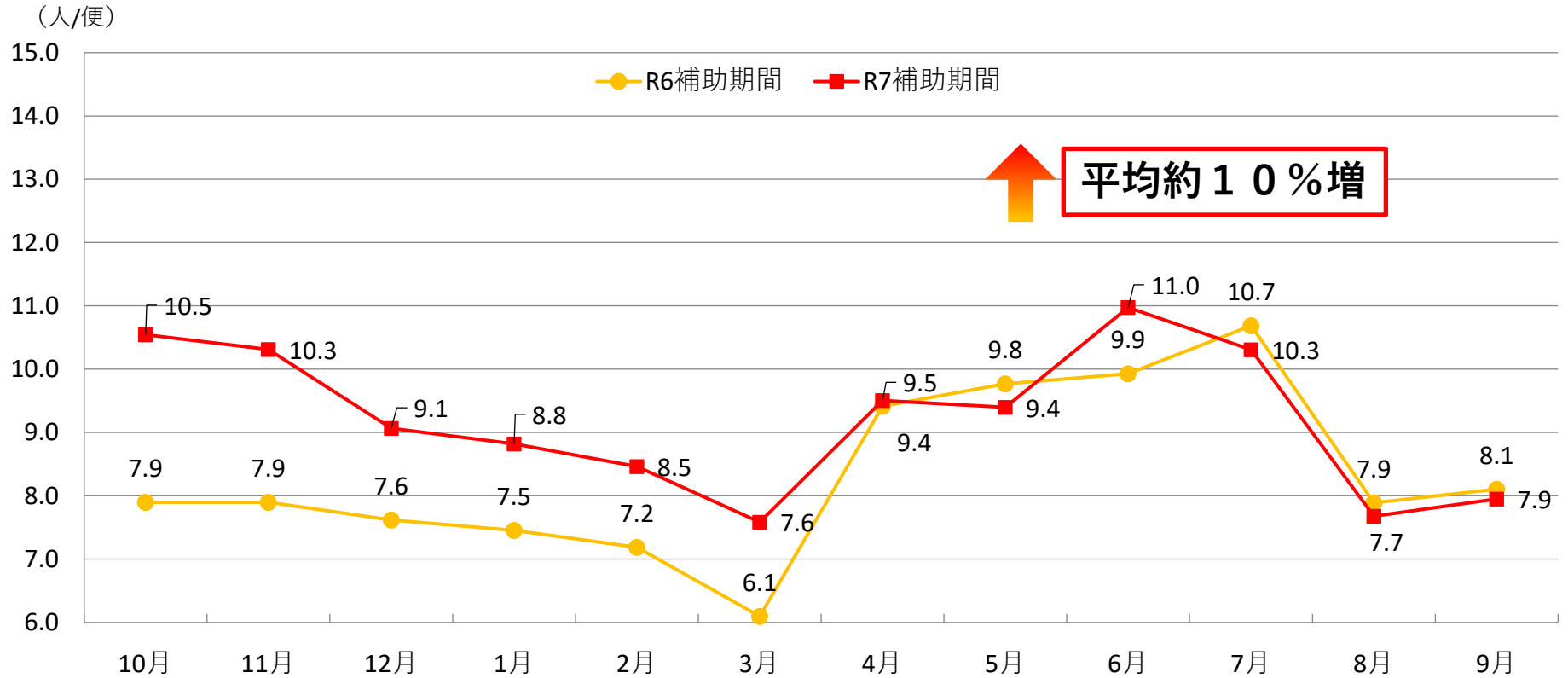
### 【事業実施の適切性】

- A: 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。
- B: 事業が計画に位置付けられた通りに実施されていない点があった。
- C: 事業が計画に位置付けられた通りに実施されなかった。

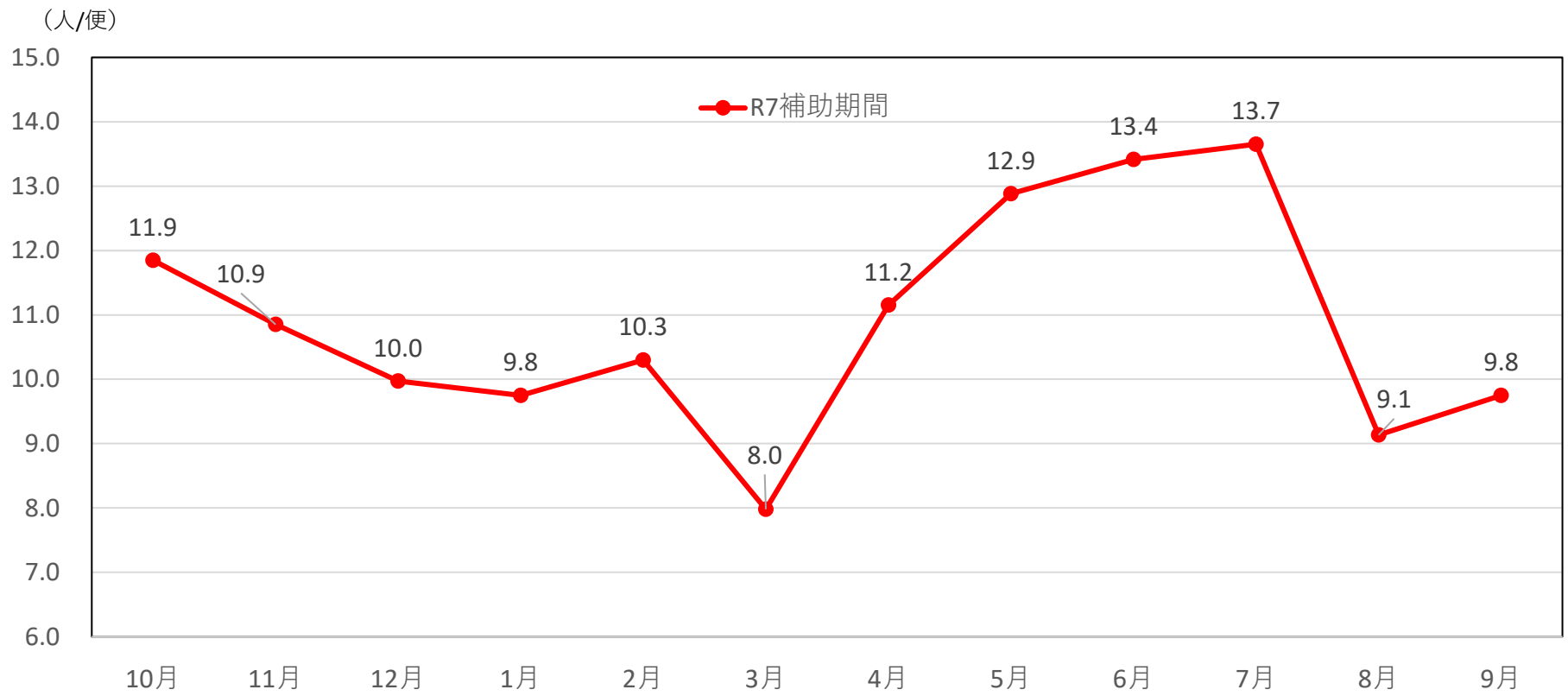
### 【目標・効果達成状況】

- A: 事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

## 伏石駅サンメッセ線 月別1便あたり乗車人数



## 大学病院線 月別1便あたり乗車人数



四運交企第58号  
令和6年9月30日

高松市総合都市交通推進協議会  
会長 土井 健司 殿

四国運輸局長  
(公印省略)

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統  
確保維持費国庫補助金）に係る地域公共交通計画の認定について

令和6年6月28日付けで認定申請のあった、令和7年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）に係る地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条第1項に規定する地域公共交通計画については、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱第10条の規定を準用する第18条により、令和6年9月25日付け国総地第125号をもって国土交通大臣が地域公共交通確保維持事業に係る計画であるものとして認定したので通知する。

記

○地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

（運行系統数） 2 系統

## 地域公共交通計画別紙（地域内フィーダー系統に係る地域公共交通確保維持事業）

令和6年6月28日

高松市総合都市交通推進協議会

地域公共交通計画別紙の名称
地域公共交通計画別紙（地域内フィーダー系統に係る地域公共交通確保維持事業）
1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性
<p>高松市では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えの下、まちづくりを進めており、将来にわたり持続可能なネットワークの再構築に向け、既存ストックを活用し、鉄道を基軸、バスをフィーダーとし、交通結節拠点整備・バス路線再編・交通系ICカードを活用したハード・ソフト両面からの施策により、一定のサービス水準を維持しながら持続性の高い公共交通体系に変えつつ、需要に合わせた供給の最適化を行う「高松モデル」の考え方を軸に取組を進めている。</p> <p>高松市の高松市地域公共交通利便増進実施計画においては、路線ごとに設定した条件を満たすものから持続可能性を向上させられるよう再編を実施することとしており、ことでん新駅整備に伴い再編する路線等の計画について、令和3年9月30日に国土交通大臣認定を受け、同年11月6日のことでん伏石駅のグランドオープンに伴い、7日から伏石駅に結節する4路線のうち2路線について、再編路線による運行を開始した。また、地域間幹線系統である鹿角線を含む残る2路線についても、令和4年4月1日から伏石駅に結節する運行を開始した。また、令和6年4月1日からは、バス路線再編によりバスと鉄道の結節機能強化を図るため、更に1路線が伏石駅結節による運行を開始した。</p> <p>また、地域公共交通確保維持改善事業による支援により、新型コロナウイルス感染症拡大による公共交通利用者減少からの脱却、「2024年問題」の影響による運転手不足等、公共交通に影響する様々な社会情勢に対応するため、高松市地域公共交通利便増進実施計画の変更について、令和6年3月13日に国土交通大臣認定を受け、令和6年4月1日から、再編路線による運行を開始した。</p> <p>当該計画において、地域間幹線系統に接続するフィーダー系統として、伏石駅サンメッセ線及び大学病院線（伏石高田系統）の2路線を設定している。</p> <p>伏石駅サンメッセ線は、交通結節拠点であることでん伏石駅と学術研究拠点にある企業や学校をつなぐ路線であり、また、大学病院線（伏石高田系統）は、学術研究拠点に加え大学病院へのアクセスが可能となる路線であることから、住民の通勤・通学、通院等を中心とした、生活に不可欠な路線として存続していくことが必要である。</p>
2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果
(1) 事業の目標
<p>高松市地域公共交通計画において、公共交通利用者数の令和10年度の目標値を令和元年度水準としており、伏石駅サンメッセ線については、年間利用者数を約162,249人以上（令和5年度実績127,813人）、大学病院線（伏石高田系統）については、年間利用者数を約53,048人以上（令和6年4月1日運行開始により令和5年度実績はなし）とする。</p> <p>また、収支率は現状より改善することとしており、伏石駅サンメッセ線（令和5年度実績48.6%）、大学病院線（伏石高田系統）（令和6年4月1日運行開始により令和5年度実績はなし）である。</p>

## (2) 事業の効果

伏石駅サンメッセ線及び大学病院線（伏石高田系統）を、交通結節拠点である、ことでん伏石駅と結節し、幹線軸と連携させつつ確保・維持することにより、通勤、通学、通院など日常生活に必要な移動手段を確保するとともに、効率的で持続可能な交通体系が実現でき、さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

### 3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

#### ・ICカード施策（高松市、事業者）

ことでんの発行する交通系ICカード「IruCa」を活用した、乗り継ぎ抵抗等を軽減する施策を実施することで、乗り継ぎの煩わしさを解消し、公共交通の利便性向上を図る。

##### (1) 電車・バス乗継割引拡大制度

IruCaを導入している公共交通（電車・バス（コミュニティバスを含む。))を乗り継いだ際に、乗り継ぎ運賃割引が適用される。交通事業者が行う20円の割引に、市が80円を追加で負担し100円を割引引くことで、乗り継ぎに伴う運賃抵抗を軽減する。

##### (2) 高齢者運賃半額制度

ゴールドIruCaは、高松市に在住する70歳以上の方を対象に、IruCaを導入している公共交通（電車・バス（コミュニティバスを含む。))の運賃が半額になる制度で、通常金額からの差額を市が負担している。これにより、高齢者の移動の利便性を向上させ、外出の機会を増やし、生きがいや健康づくりに取組むとともに、公共交通の利用促進を図る。

#### ・ネットワークバス※に対する支援（高松市）

持続可能な公共交通ネットワークの構築に資するネットワークバスとして認定した路線に対し、市が補助を行う。

##### ※ネットワークバス：

多核連携型コンパクト・エコシティの実現に向けた効率的な公共交通ネットワークの構築に資する路線であり、原則として集約拠点内の鉄道駅と結節し、かつ、既存の鉄道及び路線バスのルートと重複せず、日常生活を営む上で必要な施設を効率的に結ぶものであり、伏石駅サンメッセ線がこれに該当する。

#### ・結節機能の整備（国・香川県・高松市・事業者）

再編では、郊外部から中心部へのバス路線を、鉄道を基軸としたフィーダー化にすることから、乗り継ぎ抵抗が発生する。この抵抗を緩和するため、乗継割引等のソフト施策に加えて、シームレスな乗り継ぎを達成するための、ことでん新駅整備等のハード施策を実施している。

#### ・バス待ち環境整備（高松市、事業者）

バスの待合環境の向上並びにバス交通の利用促進及び活性化を図るため、交通事業者が待合室、上屋、ベンチ等を整備する場合に費用の一部を補助している。

#### ・モビリティ・マネジメントの実践、広報・啓発活動（高松市、事業者）

過度に自動車に依存した「クルマ中心」のライフスタイルから公共交通（鉄道・バス）への転換を促すための市民啓発やMMを実施すると共に、多様な交通手段を取りまとめたバスマップの作成や、バスロケーションシステム、デジタルサイネージの導入など、市民への情報提供を行う。

(地域公共交通計画 P6-7~6-10、P6-23、P6-29~6-34、P6-38~6-43 参照)

(地域公共交通利便増進実施計画 P51~52、P58 参照)

<p>4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者</p>
<p>表 1 を添付</p>
<p>5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏石駅サンメッセ線 運行経費から運賃収入及び国庫補助金を差し引いた差額分は事業者が負担することとしている。また、高松市においては、市独自の経費計算による運行経費から運賃収入を差し引いた額を、補助対象経費（ただし運行経費の 20 分の 9 を補助上限額とする）とし補助を行う。</li> <li>・大学病院線（伏石高田系統） 運行経費から運賃収入及び国庫補助金を差し引いた差額分は事業者が負担することとしている。</li> </ul>
<p>6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称</p>
<p>高松市総合都市交通推進協議会</p>
<p>7. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法 <b>【活性化法法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】</b></p>
<p>利用者数や収支について、数値指標によるモニタリング・評価を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通利用率の調査（事業者データ提出）</li> <li>・ネットワークバス路線については、事業者からの定期的な利用状況、収支データの提出</li> <li>・アンケートによる市民満足度調査</li> </ul>
<p>8. 別表 1 の補助対象事業の基準二ただし書に基づき、協議会が平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めた系統の概要 <b>【地域間幹線系統のみ】</b></p>
<p>※該当なし</p>
<p>9. 別表 1 の補助対象事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧 <b>【地域間幹線系統のみ】</b></p>
<p>※該当なし</p>
<p>10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 <b>【地域間幹線系統のみ】</b></p>
<p>※該当なし</p>

11. 外客来訪促進計画との整合性 <b>【外客来訪促進計画が策定されている場合のみ】</b>
※該当なし
12. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 <b>【地域内フィーダー系統のみ】</b>
表5を添付
13. 車両の取得に係る目的・必要性 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
14. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
(1) 事業の目標
※該当なし
(2) 事業の効果
※該当なし
15. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費用の負担者 <b>【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
16. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） <b>【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
17. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 <b>【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>
※該当なし
18. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果 <b>【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】</b>

(1) 事業の目標	
※該当なし	
(2) 事業の効果	
※該当なし	
19. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】	
※該当なし	
20. 協議会の開催状況と主な議論	
<p>高松市総合都市交通推進協議会 令和5年6月6日 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）について</li> <li>※本計画（生活交通確保維持改善計画）について協議</li> </ul> <p>高松市総合都市交通推進協議会 令和5年11月28日 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高松市地域公共交通利便増進実施計画（バス路線再編 第3段）について</li> <li>※令和6年4月から実施するバス路線再編第3段について協議（本計画は当該協議内容に基づき作成）</li> </ul> <p>上記の議事について、全ての構成員から合意を得られた。</p>	
21. 利用者等の意見の反映状況	
地域公共交通の利用者として、市の公募による市民4人が参画している高松市総合都市交通推進協議会において、本計画について協議し、計画とした。	
22. 協議会メンバーの構成員	
関係都道府県	別紙名簿のとおり。
関係市区町村	
交通事業者・交通施設管理者等	
地方運輸局	
その他協議会が必要と認める者	

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 高松市番町一丁目8番15号

(所 属) 高松市都市整備局交通政策課

(氏 名) 地濱 修平

(電 話) 087-839-2138

(e-mail) kotsuseisaku@city.takamatsu.lg.jp

**注意：** 本様式はあくまで参考であり、補助要綱の要件を満たすものであれば、この様式によらなくても差し支えありません。

また、既存計画部分で生活交通確保維持改善計画の記載項目に合致する部分は、そこからの転記や、該当部分を明確にした上での添付などにより活用いただいて差し支えありません。

実際の計画作成に当たっては補助要綱等を踏まえて作成をお願いいたします。

各記載項目について、地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画を作成している場合には、当該計画から該当部分を転記したり、別添〇〇計画△節のとおり、等として引用したりすることも可能です。(ただし、上記2.・3.については、地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画に定める目標、当該目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項との整合性を図るようにして下さい。また、生活交通確保維持改善計画全体として、協議会における協議が整った上で提出される必要があります)。

外客来訪促進計画を作成している場合には、当該計画から該当部分を転記したり、別添〇〇計画△節のとおり、等として引用したりすることも可能です。

※該当のない項目は削除せず、「該当なし」と記載して下さい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表

令和7年2月28日

四国運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金(香川県)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・ 効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果
高松市総合都市 交通推進協議会	ことでんバス株式会社	伏石駅サンメッセ線 (伏石駅～県立図書館・文書館前～サンメッセ東)	<p>&lt;前回の評価結果の概要&gt; 地域のニーズに合致したサービス内容になっているか継続的に検証し、必要に応じ見直し等を検討すること。</p> <p>&lt;評価結果の反映状況&gt; ・交通系ICカード「IruCa」を活用した利用促進施策(乗継割引拡大事業等)を継続して実施している。</p> <p>・バス路線再編については、路線が重複している区間の利用状況等を踏まえ、運行回数の効率化による需要に合わせた供給の最適化を目的とし、R6.4.1から再編を実施している。</p> <p>その結果、左記バス路線について、需要に合わせた適正な供給がなされている。</p>	A	B	<p>公共交通の利用促進施策である交通系ICカード「IruCa」を活用した運賃割引施策を実施するなど、引き続き、コロナ禍からの利用回復に努めるとともに、交通結節拠点整備やバス路線再編に取り組むことにより、ネットワーク全体の利便性向上を図る。</p> <p>また、当該路線は、通勤・通学利用者の多い路線であることから、モビリティマネジメントを通じてバスの利用を促すなど、引き続き利用者増に努める。</p>	<p>鉄道を軸とした交通ネットワークの構築が図られており、交通結節点の整備など具体的な施策が継続的に実施されていることを確認しました。</p> <p>バス路線については、R6.4からの再編をはじめ、路線の効率化や利用者の利便性向上に向けた取組を積極的に実施しており、収支率向上に寄与しているものとみられる。</p> <p>引き続き、こうした再編の影響及び効果については、利用状況の調査・分析が必要であると思われるため、協議会を中心に検討を進めていただきたい。</p>	<p>◆伏石駅サンメッセ線</p> <p>【利用者数】 123,365人 (目標達成率: <b>91.4%</b> 目標利用者数: 135,000人) (対前年比 : 96.5% R5利用者数: 127,813人) (対前々年比: 106.7% R4利用者数: 115,574人)</p> <p>【収支率】 66.6% (目標達成率: <b>188.1%</b> 目標収支率: 35.4%) (対前年差 : 137.0% R5収支率: 48.6%) (対前々年差: 154.9% R4収支率: 43.0%)</p> <p>R6.4.1から従前と比較して約30%減便しているが、利用者数は5%程度の減少に留まっている。</p> <p>また、R5.9に実施した運賃改定の影響により収支率の大幅な改善がなされた。</p>
		高松西高線 (伏石駅～鶴市町～高松西高) ※令和6年4月1日再編により事業対象外	<p>・利用促進施策を進めることにより、1便当たりの利用者数は増加傾向にある。</p> <p>特に、高松西高線については、定期利用者が、R3: 3件、R4: 19件、R5: 24件と増加傾向にあり、通勤・通学の利用者が増加している。</p>					<p>今後も、地域住民をはじめとした利用者のニーズを踏まえ、必要に応じサービス内容検討いただくようお願いいたします。</p>